

平成30年～令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)
自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人東京都歴史文化財団
施 設 名	東京文化会館
助 成 対 象 活 動 名	より多くの人々に集い親しまれる劇場へ
助 成 期 間	5 (年間)
内 定 額	平成30年度 61,991 平成31年度 57,702 令和2年度 56,447 令和3年度 55,247 (千円)

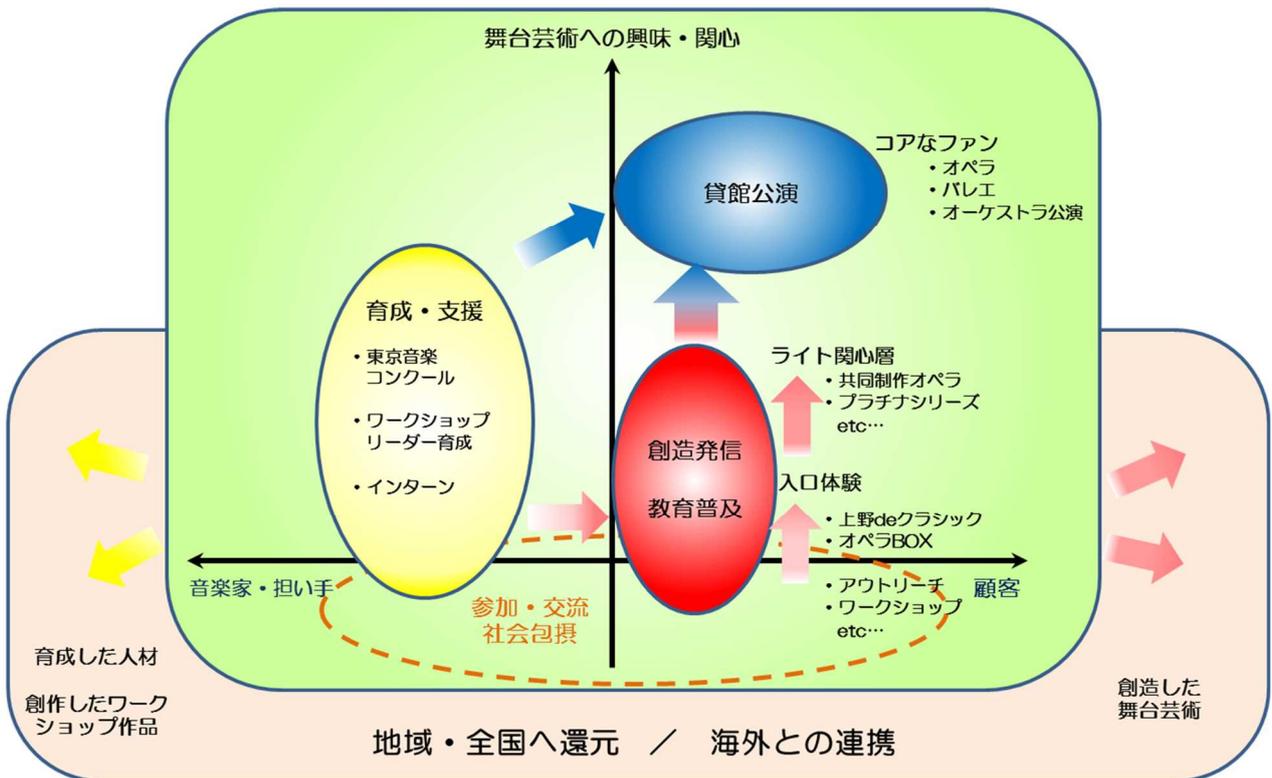
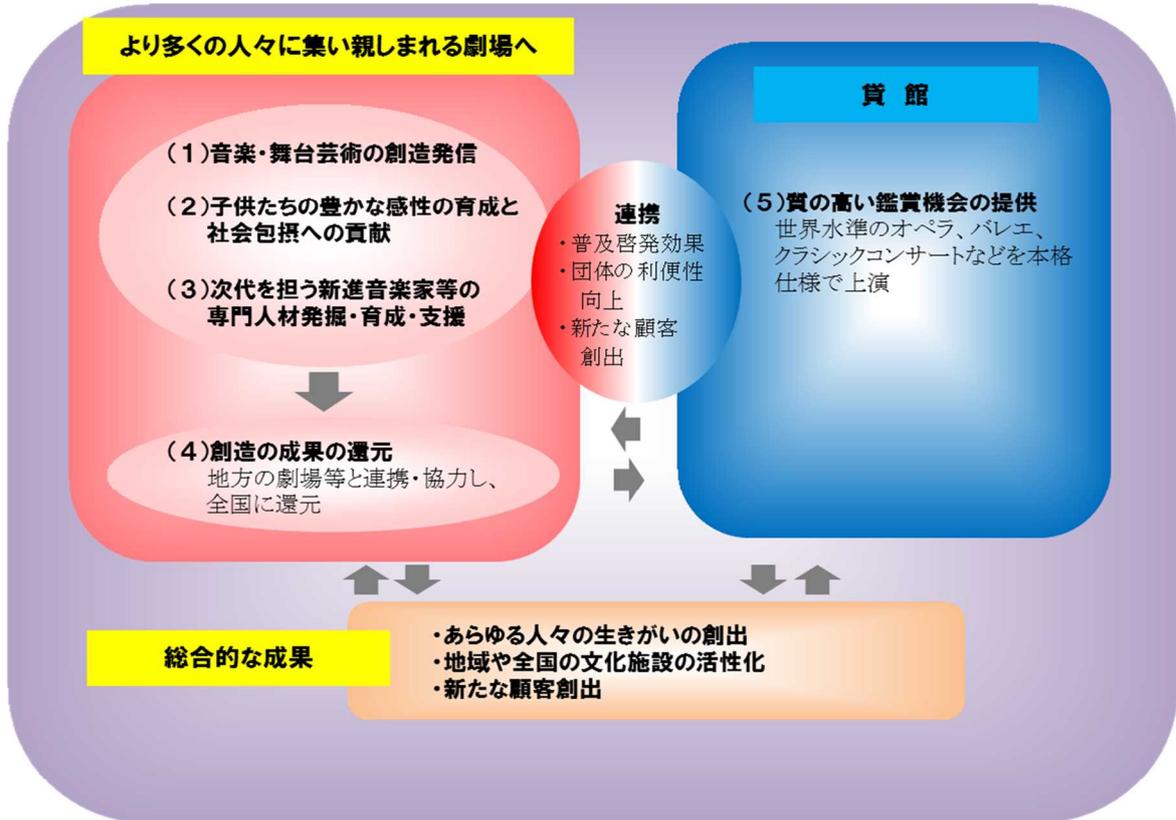
1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

（事業名） より多くの人々に集い親しまれる劇場へ

～公立文化施設に求められる文化芸術の振興、文化芸術の力を活用した社会的課題の解決に向けた展開を視野に目指す姿～



(2) 令和3年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程		概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			目標値	実績値
1	舞台芸術創造事業 国際共同制作オペラ『Only the Sound Remains-余韻-』	令和3年6月6日(日)		作曲：K・サーリアホ、指揮：K・M・タカス、演出：A・バリエール、カウンターテナー：M・スワヴェツキ、他	目標値	1,600
		東京文化会館 大ホール			実績値	1,048※
2	オペラBOX スペシャルハイライト Vol.1/Vol.2	令和3年9月18日(土)、19日(日)		モーツァルト『魔笛』他 指揮：須藤桂司、演出：恵川智美 砂川涼子、中江早希、寺田功治、他	目標値	1,000
		東京文化会館 小ホール			実績値	801※
3	創遊・楽落らいぶ -音楽家と落語家のコラボレーション-	令和3年5月14日(金) ほか※		【出演】落語：三遊亭遊之介 (演目「青菜」)他 演奏：フルゴール トリオ、他	目標値	2,250
		東京文化会館 小ホール			実績値	1,032※
4	バースデーコンサート	令和3年4月7日(火)		指揮：佐渡裕、Ms：藤村実穂子 管弦楽：東京都交響楽団、ドヴォルザーク：交響曲第9番「新世界より」、他	目標値	1,800
		東京文化会館 大ホール			実績値	1,261※
5	響の森コンサート	令和3年6月9日(水) 令和4年1月3日(月)		指揮：大友直人、Vl：木嶋真優、 ブラームス交響曲第4番他 指揮：飯森範親、Pf：萩原麻未 ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番、他 管弦楽：東京都交響楽団	目標値	3,600
		東京文化会館 大ホール			実績値	2,958※
6	上野 de クラシック	令和3年4月21日(水) ほか※(全12回)		トロンボーン：伊藤雄太、他 *新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止(1公演)、日程変更公演あり	目標値	6,000
		東京文化会館 小ホール			実績値	3,236※
7	Enjoy Concerts! シアター・デビュー・プログラム Hamlet ハムレット	令和3年12月18日(土)、19日(日)		平常×宮田大「Hamlet ハムレット」 脚本/演出/美術/人形操演：平常 音楽構成/チェロ：宮田大	目標値	1,000
		東京文化会館 小ホール			実績値	1,180
8	Enjoy Concerts! シアター・デビュー・プログラム 虫めづる姫君	令和4年2月5日(土)、6日(日)		「虫めづる姫君」 演出・振付・舞踏/我妻恵美子 ピアノ・音楽監督/加藤昌則 ソプラノ(語り部)：三宅理恵	目標値	1,000
		東京文化会館 小ホール			実績値	1,026
9	Enjoy Concerts! プラチナ・シリーズ	令和3年9月24日(金)、ほか※(全5回)		ヴァイオリン：ライナー・キュッヒル、 ピアノ：加藤洋之、他 *新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止(2公演)	目標値	2,500
		東京文化会館 小ホール			実績値	1,687※
10	Enjoy Concerts! シャイニング・シリーズ	令和3年11月26日(金)、2月23日(水祝)		Vol.9 東京文化会館チェンバーオーケストラ、ベートーヴェン：交響曲第2番他 Vol.10 服部百音ヴァイオリンリサイタル	目標値	800
		東京文化会館 小ホール			実績値	1,021
11	第19回東京音楽コンクール及び東京音楽コンクールの充実	第1次予選：6月～7月 第2次予選：8月 本選：8月		【開催部門】弦楽・木管・声楽部門 【審査員】総合審査委員長：堤剛、 コンクール顧問：ジョージ・レンドヴァイ、他	目標値	1,950
		東京文化会館 大ホール ほか			実績値	2,187
12	第19回東京音楽コンクール優勝者&最高位入賞者コンサート	令和4年1月10日(月・祝)		指揮：下野竜也、クラリネット：亀居優斗 ソプラノ：梶田真未、ヴァイオリン：福田麻子	目標値	1,600
		東京文化会館 大ホール			実績値	1,390※
13	新進音楽家の国際キャリアアップ支援	中止		*新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止	目標値	1,350
		中止			実績値	-

14	夏休み子ども音楽会 2021《上野の森文化探 検》	令和3年7月25日(日) 11時、14時 2回公演	出演:東京都交響楽団メンバーによる アンサンブル ピアノ:山田剛史	目標値	940
		東京文化会館 小ホール		実績値	808※
15	Enjoy Concerts! 3歳 からの楽しいクラシック	令和3年10月30日(土)	ピアノ:白石光隆 ヴィオラ:渡邊千春	目標値	450
		東京文化会館 小ホール		実績値	506
16	Enjoy Concerts! まち なかコンサート	令和3年10月17日 (日)他、3回	弦楽四重奏等で実施 *新型コロナウイルス感染症拡大の影響で6回中止	目標値	1,000
		国際子ども図書館、他		実績値	2,440
17	Workshop Workshop! 国 際連携企画	令和3年4月~令和4 年3月	【出演】東京文化会館ワークショップ・ リーダー、若手演奏家 ほか	目標値	2,800
		東京文化会館、他		実績値	5,181
18	Workshop Workshop! コ ンビニアル・プロジェク ト	令和3年4月~令和4 年3月	【出演】東京文化会館ワークショップ・ リーダー、東京音楽コンクール入賞者、 在京オーケストラ	目標値	1,400
		東京文化会館、他		実績値	3,099
19	Workshop Workshop! 東 京ネットワーク計画	令和3年4月~令和4 年3月	【出演】東京音楽コンクール入賞者、他	目標値	700
		東京文化会館、他		実績値	753
20	Music Education Progr am Talk & Lesson	令和3年6月1日(火)	【出演】カイヤ・サーリアホ(作曲家) クレマン・マオ・タカス(指揮者) アレクシ・バリエール(演出家) カミラ・ホイテンガ(フルート)他	目標値	350
		東京文化会館小ホール		実績値	127※
21	Music Education Progr am オペラをつくろう!	令和3年8月5日(木) ~9月19日(日)	【講師】恵川智美(演出)、須藤桂司(指 揮)、増田恵美(衣裳家)、望月太介(照 明)、他	目標値	870
		東京文化会館、他		実績値	425※
22	Music Education Progr am アウトリーチワーク ショップ	令和3年6月~令和4 年3月	【出演】安音めぐみ、磯野恵美、他(東 京文化会館ワークショップリーダー) ヴィタリ・ユシュマノフ(Br)、他 *新型コロナウイルス感染症拡大の影響 で2回中止	目標値	1,900
		都内小学校、他		実績値	2,515

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	舞台芸術創造事業 歌劇『ヴォルフ イタリア歌曲集』	令和2年11月28日(土) 東京文化会館 小ホール	【出演者】ソプラノ:老田裕子、バリトン:小森輝彦、ピアノ:井出徳彦 【演出/構成】岩田達宗 ほか	目標値 470	実績値 383※
2	オペラ BOX「アマルと夜の訪問者」	令和2年8月30日(日) 東京文化会館 小ホール	【台本・作曲】ジャン=カルロ・メノッティ、【指揮】園田隆一郎、【演出】岩田達宗	目標値 500	実績値 251※
3	創遊・楽落らいぶ ー音楽家と落語家のコラボレーションー	令和2年9月9日(水) ほか※ 東京文化会館 小ホール	【出演者】落語:雷門小助六 ほか 11/5 開催予定分新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止	目標値 2,250	実績値 783※
4	響の森コンサート	令和3年1月3日(日) ※ 東京文化会館 大ホール	【指揮】飯守泰次郎、【ピアノ】小川典子 7/14 開催予定分新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止	目標値 3,600	実績値 1,186※
5	上野 de クラシック	令和2年7月15日(水) ほか※ 東京文化会館 大ホール ほか	【出演者】ソプラノ盛田麻央 ほか 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で次年度へ延期公演あり	目標値 6,000	実績値 2,376※
6	Enjoy Concerts! 小曽根真 & 東京都交響楽団 “Jazz meets Classic”	令和2年7月25日(土)、26日(日) 東京文化会館 大ホール オリンパスホール八王子	【曲目】モーツァルト:ピアノ協奏曲第23番 イ長調 K488 ほか、【ピアノ】小曽根真、【指揮】太田弦	目標値 3,130	実績値 969※
7	Enjoy Concerts! プラチナ・シリーズ	令和2年9月20日(日) ほか 東京文化会館 小ホール	第1回「小山実稚恵～名手が奏でる円熟のピアノリズム～」 【出演者】ピアノ:小山実稚恵 ほか	目標値 2,400	実績値 1,816※
8	Enjoy Concerts! シャイニング・シリーズ	令和2年6月28日(日) ほか 東京文化会館 大ホール ほか	【出演者】テノール:村上敏明、与儀巧、宮里直樹、小堀勇介、ピアノ:江澤隆行 ほか	目標値 700	実績値 1,072
9	第18回東京音楽コンクール及び東京音楽コンクールの充実	第1次予選:6月～7月 第2次予選:8月 本選:8月 東京文化会館 大ホール ほか	【開催部門】ピアノ・弦楽・金管部門 【審査員】総合審査委員長:小林研一郎、コンクール顧問:堤剛 ほか	目標値 1,950	実績値 2,160
10	第18回東京音楽コンクール優勝者&最高位入賞者コンサート	令和3年1月11日(月・祝) 東京文化会館 大ホール	【出演者】指揮:角田鋼亮、ピアノ:大崎由貴、トロンボーン:伊藤雄太 ヴァイオリン:前田妃奈、ピアノ:谷昂登	目標値 1,600	実績値 959※
11	夏休み子ども音楽会 2020 《上野の森文化探検》	令和2年8月10日(月・祝) 東京文化会館 大ホール	【出演者】指揮とお話:園田隆一郎、ソプラノ:中江早希、テノール:工藤和真、管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団	目標値 1,800	実績値 791※
12	Enjoy Concerts! 3歳からの楽しいクラシック	令和2年11月7日(土) 東京文化会館 小ホール	【出演者】ピアノ:白石光隆、オーボエ:副田真之介、ファゴット:大内秀介	目標値 450	実績値 547
13	Enjoy Concerts! まちなかコンサート	令和2年9月19日(土) ほか 東京文化会館大ホール ホワイエ ほか	【出演者】弦楽四重奏:吉江美桜(ヴァイオリン)ほか、メゾソプラノ&バリトン:高橋華子(ソプラノ) ほか	目標値 4,800	実績値 5,431

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
14	Workshop Workshop!～国際連携企画～	令和2年4月～令和3年3月	【出演者】カーザ・ダ・ムジカ ワークショップ・リーダー、東京文化会館ワークショップ・リーダー、若手演奏家 ほか	目標値	2,600
		東京文化会館 ほか		実績値	3,606
15	Workshop Workshop! 2020 on stage & legacy	令和2年4月～令和3年3月	フォーラム、オーケストラと連携した公演・アウトリーチ、特別支援学校におけるワークショップ等の実施 ほか	目標値	1,400
		東京文化会館 ほか		実績値	2,843
16	Workshop Workshop! 東京ネットワーク計画	令和2年10月17日(土) ほか	都内文化施設と連携したアウトリーチの実施や人材育成、年間の活動成果を発表するコンサートの実施	目標値	1,000
		保谷こもれびホール ほか		実績値	641※
17	Music Education Program Talk & Lesson	令和2年7月16日(木)	レクチャー型の公開ワークショップの実施【出演者】ピアニスト:小曽根真	目標値	550
		東京文化会館 大ホール		実績値	383
18	Music Education Program オペラをつくろう!	令和2年7月23日(木)～8月30日(日)	オペラの児童・生徒合唱ワークショップの実施【講師】岩田達宗(演出)、園田隆一郎(指揮) ほか	目標値	870
		東京文化会館		実績値	448※
19	Music Education Program アウトリーチワークショップ	令和2年7月～令和3年3月	演奏指導者等を派遣し、演奏指導を行うクリニックとワークショップ・リーダーによる音楽ワークショップの実施	目標値	1,900
		墨田区立言問小学校 ほか		実績値	1,567※
20	オリパラ期間盛り上げ事業	中止※	東京2020大会の延期に伴い、東京都が事業中止の決定をしたため中止	目標値	6,000
				実績値	0※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(4) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	舞台芸術創造事業 「400歳のカストラート」	2020年2月15日	企画原案・選曲・カウンターテナ ー：藤木大地 脚本・演出・美術： 平常(たいらじょう) 音楽監督・ 作曲・編曲・ピアノ：加藤昌則 朗 読：大和田 獏、大和田美帆 演奏 ／ヴァイオリン：成田達輝、坪井夏 美 ヴィオラ：田原綾子 チェロ： 笹沼 樹 他	目標値	470
		東京文化会館小ホール		実績値	564
2	オペラBOX 「泣いた赤おに」	2019年9月22日、23 日	作曲・台本・指揮：松井和彦 演 出：久恒秀典 赤おに(Ten)：宮里 直樹 青おに(Br)：岡 昭宏 木こ り(Br)：龍 進一郎 その娘 (Sop)：盛田麻央 百姓(Ten)：黄木 透 その女房(Mez)：八木寿子 ナ レーター(Sop)：高橋薫子 ピア ノ：服部容子 ヴァイオリン：岸本萌乃加 クラリ ネット：草野裕輝 打楽器：甘田一 成、沓名大地、彌永和沙 他	目標値	1,000
		東京文化会館小ホール		実績値	1,059
3	創遊・楽落らいぶ ー音楽家と落語家のコラ ボレーションー	2019年6月20日 ～2020年3月6日 ※新型コロナウイルス の影響のため1回中止	演目：蒟蒻問答、化け物使い、お見 立て(イラスト&英語字幕付)、松 山鏡、落語：瀧川鯉昇、三遊亭遊 吉、桂米福、桂文治 和妻：きょう こ 演奏／作曲・ピアノ：コーセイ チェロ：たのうち恵美 スチールギ ター：小林“LION”潔 ヴォーカ ル・ギター：山本雅也 他 年5回	目標値	2,250
		東京文化会館小ホール		実績値	2,027
4	響の森コンサート	①2019年8月1日 ②2020年1月3日	①シベリウス：交響詩「フィンラン ディア」、ロドリーゴ：アランフェ ス協奏曲 他 指揮：小林研一郎 ギター：村治佳 織 管弦楽：東京都交響楽団 ②ガーシュウィン：ラプソディ・イン ・ブルー、外山雄三：管弦楽のた めのラプソディー 他 指揮：外山雄三 ピアノ：横山幸雄 管弦楽：東京都交響楽団	目標値	3,600
		東京文化会館大ホール		実績値	4,448
5	上野 de クラシック	2019年4月17日 ～2020年3月10日 ※新型コロナウイルス の影響のため1回中止	東京音楽コンクール入賞者の活動支 援コンサート。 ヴァイオリン：関 朋岳 トロンボ ーン：高瀬新太郎 ヴァイオリン： 高木 凜々子 トランペット：三村 梨紗 他 年16回	目標値	6,000
		東京文化会館小ホール		実績値	7,729

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
6	Enjoy Concerts! 小曽根真&スコティッシュ・ナショナル・ジャズ・オーケストラ “Jazz meets Classic”	①2019年5月18日 ②2019年5月19日	プロコフィエフ：ピーターと狼（トミー・スミス編曲／ナレーション付き）、サン＝サーンス：動物の謝肉祭（小曽根真編曲） ピアノ：小曽根 真 ナレーション：橋爪功 スコティッシュ・ナショナル・ジャズ・オーケストラ	目標値	3,130
		①東京文化会館大ホール ②オリンパスホール八王子		実績値	3,409
7	Enjoy Concerts! プラチナ・シリーズ	2019年9月26日 ～2020年1月24日	第1回「パスカル・ロジェ」 第2回「アンサンブル・ウィーン＝ベルリン」 第3回「秋吉敏子」 第4回「鈴木大介 ゲスト：渡辺香津美」 第5回「ベルリン・フィルハーモニー・ピアノ四重奏団」	目標値	2,400
		東京文化会館小ホール		実績値	3,043
8	Enjoy Concerts! シャイニング・シリーズ	①2019年10月30日 ②2020年2月22日	①Vol.5 ボローニャ歌劇場弦楽五重奏～東京音楽コンクール入賞者とともに～ ②Vol.6 萩原麻未 ピアノソロ・リサイタル	目標値	700
		東京文化会館小ホール		実績値	1,086
9	第17回東京音楽コンクール及び東京音楽コンクールの充実	募集2019年4月15日 ～4月24日 予選～本選2019年6月29日～8月26日	開催部門：ピアノ部門、木管部門、声楽部門 総合審査委員長：小林研一郎 顧問：ジョージ・レンドヴァイ 他 第1次予選：非公開審査 第2次予選・本選：公開審査	目標値	1,950
		東京文化会館小ホール 東京文化会館大ホール		実績値	4,220
10	第17回東京音楽コンクール優勝者&最高位入賞者コンサート	2020年1月13日	ピアノ：秋山紗穂 フルート：瀧本実里 テノール：工藤和真 指揮：三ツ橋敬子 管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団 司会：朝岡 聡	目標値	1,600
		東京文化会館大ホール		実績値	2,131
11	夏休み子ども音楽会2019 《上野の森文化探検》	2019年8月4日	ヴェルディ：オペラ『アイーダ』より凱旋行進曲、プッチーニ：オペラ『ジャンニ・スキッキ』より「私のお父さん」、プッチーニ：オペラ『トゥーランドット』より「誰も寝てはならぬ」他 指揮とお話：山下一史 ソプラノ：種谷典子 テノール：宮里直樹 管弦楽：東京都交響楽団	目標値	1,800
		東京文化会館大ホール		実績値	2,159
12	Enjoy Concerts! 3歳からの楽しいクラシック	2019年10月26日	アンダーソン：トランペット吹きの子守唄 楽器紹介：ピッコロトランペット／クラーク：トランペット・チューン ワークショップ：切ったペットボトルでためしてみよう！／アメリカ民謡：幸せなら手をたたこう他、ピアノ：白石光隆 トランペット：多田将太郎	目標値	450
		東京文化会館小ホール		実績値	513

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
13	Enjoy Concerts! まちなかコンサート	2019年9月20日 ～11月2日	東京音楽コンクール入賞者を起用した美術館や博物館等との連携コンサート。①メゾソプラノ：高橋華子 ②オーボエ：副田真之介 ③ヴィオラ：有富萌々子 他	目標値	4,800
		①国立西洋美術館、②東京国立博物館、③江戸東京たてももの園 他		実績値	6,481
14	Workshop Workshop! ～国際連携企画～	2019年4月21日 ～2020年3月25日 ※新型コロナウイルスの影響のため11回中止	①カーザ・ダ・ムジカ来日講師陣によるワークショップ・リーダー育成プログラム 延べ177回 ②カーザ・ダ・ムジカと東京文化会館オリジナル・ワークショップを集中的に実施する、夏(7月)と冬(12月)のワークショップ・フェスタ 35回 ③①で育成された将来性豊かな人材のチームによる、年間を通じての館の内外でのワークショップ実施45回 ④他施設との連携企画 14回 ⑤ワークショップ・リーダーの研鑽 延べ366回 ⑥各種機関との連携プロジェクト 3回 出演：東京文化会館 ワークショップ・リーダー 他	目標値	2,600
		①②③⑤東京文化会館リハーサル室 ②北とぴあ、調布市グリーンホール ④サンポートホール高松 ⑥特別養護老人ホームあさくさ 他		実績値	5,948
15	Workshop Workshop! 2020 on stage & legacy	2019年6月13日 ～2020年3月10日 ※新型コロナウイルスの影響のため検証公開報告会中止	①各種機関との連携プロジェクトを核とした長期プロジェクトの実施 協力：ブリティッシュ・カウンシル、共催：台東区教育委員会他 19回 ②特別支援学校におけるオーケストラ公演等の開催 共催：東京オーケストラ事業協同組合 4校 5回 ③特別支援学校や高齢者施設等におけるワークショップの開催 出演：東京文化会館 ワークショップ・リーダー8校 16回、2施設 6回 ④効果の測定と検証 研究協力：同志社女子大学、九州大学 3回	目標値	1,400
		①台東区生涯学習センター ②都立八王子特別支援学校 ③都立立川ろう学校 ④東京芸術劇場リハーサル室 他		実績値	2,570
16	Workshop Workshop! 東京ネットワーク計画	2020年1月27日 ～3月7日 ※新型コロナウイルスの影響のため5回中止	①都内文化施設と連携したアウトリーチの実施 出演/オーボエ：篠原拓也、ファゴット：柿沼麻美 他 3会場 4公演中止 ②文化施設の連携：人財の育成 協力：サントリーホール、トリトン・アーツ・ネットワーク 2回 ③成果発表 中止	目標値	1,000
		①あきる野ルピア 他 ②サントリーホールリハーサル室 ③東京文化会館小ホール		実績値	104
17	Music Education Program Talk & Lesson	①2019年5月15日 ②2019年10月28日、	①小曾根真ワークショップ「自分で見つける音楽 Vol.7」 ピアノ：小曾根 真 ②ポローニヤ歌劇場弦楽五重奏メンバーによる オーケストラ・スタディ マスタークラス 講師/ヴァイオリン：エマヌエーレ・ベンフェナーティ 他	目標値	550
		①東京文化会館小ホール ②東京文化会館リハーサル室 他		実績値	616

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
18	Music Education Program オペラをつくろう!	2019年7月23日 ～9月23日	オペラBOX「泣いた赤おに」連携事業。①小・中学生を対象にしたオペラの児童・生徒合唱・合奏・演技ワークショップ参加後、オペラBOX「泣いた赤おに」に出演。延べ22回 ②美術系参加ワークショップ延べ5回 ③舞台制作ワークショップ延べ35回 講師/指揮：松井和彦、演出：久恒秀典、歌唱指導：田中美佳、合奏指導：諸遊耕史 他	目標値	800
		①③東京文化会館リハーサル室 他 ②③狛江エコルマホール 他		実績値	1,069
19	Music Education Program アウトリーチワークショップ	2019年5月31日 ～2020年3月7日 ※新型コロナウイルスの影響のためクリニック2回中止	①クリニック(演奏指導)3校13回うち2回中止 講師：東京音楽コンクール入賞者 他 ②ワークショップ 37校81回 出演：東京文化会館 ワークショップ・リーダー	目標値	1,900
		①八王子市立清水小学校 他 ②瑞穂町立瑞穂第三小学校 他		実績値	2,767
20	バリアフリー対応	通年	①追加誘導員の配置 ②手話通訳者の配置	目標値	—
		東京文化会館小ホール 東京文化会館大ホール		実績値	—
21	多言語対応	通年	①チラシ、プログラム原稿の英語への翻訳 ②チラシ、プログラム英語版のデザイン・印刷 ③英語字幕の作成・機材借用 オペラBOX、創遊・楽落らいぶ	目標値	—
		東京文化会館小ホール 東京文化会館大ホール		実績値	—

(5) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	舞台芸術創造事業 小ホールシリーズ① たいらじょう×宮田大アンサンブル「SALOME/サロメ」	2019年1月19日、20日	脚本／演出／美術／人形操演：たいらじょう音楽監督／チェロ：宮田 大他	目標値	940
		小ホール		実績値	1,169
2	舞台芸術創造事業 小ホールシリーズ② 日本・ハンガリー国交樹立150周年記念「現代音楽と能」	2019年3月9日	能：青木涼子演出：平田オリザ他	目標値	400
		小ホール		実績値	581
3	オペラBOX「トスカ」	2018年9月1日、2日	トスカ（ソプラノ）：砂川涼子、上田純子演出：粟國 淳 他	目標値	1,000
		小ホール		実績値	1,077
4	創遊・楽落らいぶー音楽家と落語家のコラボレーションー	2018年5月25日 他	演目：宮戸川落語：瀧川鯉朝演奏：三界秀実（クラリネット） 他	目標値	2,250
		小ホール		実績値	2,884
5	響の森コンサート	2018年6月26日 他	指揮：小林研一郎ヴァイオリン：南 紫音管弦楽：東京都交響楽団 他	目標値	3,600
		大ホール		実績値	4,058
6	上野 de クラシック	2018年4月25日 他	ヴァイオリン：依田真宣、瀧村依里 ヴィオラ：瀧本麻衣子チェロ：加藤陽子ピアノ：居福健太郎 他	目標値	5,400
		小ホール		実績値	7,366
7	Enjoy Concerts! “Jazz meets Classic” with 東京都交響楽団	2018年9月29日、30日	ピアノ：小曾根 真トランペット：エリック・ミヤシロ指揮：エドウィン・アウトウォーター管弦楽：東京都交響楽団 他	目標値	3,130
		大ホール 他		実績値	3,478
8	Enjoy Concerts! プラチナ・シリーズ	2018年6月15日 他	チェロ：マリオ・ブルネロピアノ：江口玲 他	目標値	2,400
		小ホール		実績値	3,056
9	Enjoy Concerts! シャイニング・シリーズ	2018年11月17日 他	解説：水谷彰良ソプラノ：天羽明恵メゾソプラノ：富岡明子 他	目標値	700
		小ホール		実績値	1,075
10	第16回東京音楽コンクール及び東京音楽コンクールの充実	2018年8月20日 他	開催部門：弦楽部門、金管部門、声楽部門総合審査委員長：小林研一郎顧問：ジョージ・レンドヴァイ 他	目標値	1,950
		小ホール、大ホール		実績値	2,730
11	第16回東京音楽コンクール優勝者&最高位入賞者コンサート	2019年2月11日	指揮：角田鋼亮管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団ヴァイオリン：関朋岳 他	目標値	1,600
		大ホール		実績値	2,074
12	夏休み子ども音楽会2018 《上野の森文化探検》	2018年7月29日	指揮：現田茂夫バレエ：奈良春夏、三雲友里加、岡崎隼也 ほか東京バレエ団管弦楽：東京都交響楽団 他	目標値	1,800
		大ホール		実績値	2,156
13	Enjoy Concerts! 3歳からの楽しいクラシック	2018年11月10日	ピアノ：白石光隆フルート：上野由恵	目標値	450
		小ホール		実績値	582

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
14	Enjoy Concerts! まちなかコンサート	2018年9月14日 他	カウンターテナー：村松稔之 他	目標値	4,800
		上野の森美術館 他		実績値	7,077
15	Workshop Workshop!～ 国際連携企画～	2018年4月22日 他	出演：カーザ・ダ・ムジカ ワークシ ョップ・リーダー、東京文化会館ワ ークショップ・リーダー 他	目標値	2,600
		リハーサル室 他		実績値	6,640
16	Workshop Workshop! 2020 on stage & legacy	2018年6月14日 他	出演：東京文化会館ワークショップ・リ ーダー 他	目標値	600
		大塚ろう学校城東分教室 他		実績値	2,241
17	Workshop Workshop! 東京ネットワーク計画	2018年11月3日 他	ヴィオラ：田原綾子ピアノ：原嶋唯 他	目標値	1,000
		タワーホール船堀 他		実績値	945
18	Music Education Program Talk & Lesson	2018年9月24日	ピアノ：小曾根 真	目標値	550
		小ホール		実績値	614
19	Music Education Program オペラをつくろう！	2018年7月24日 他	講師：須藤桂司（指揮）、栗國淳（演出）、 横田あつみ（美術家）、増田恵美（衣裳 家）、田中義浩（舞台監督）、田中美佳（児 童合唱指導） 他	目標値	800
		リハーサル室 他		実績値	942
20	Music Education Program アウトリーチ ワークショップ	2018年5月17日 他	出演：東京文化会館ワークショップ・リ ーダー 他	目標値	1,900
		東村山市立大岱小学校他		実績値	2,604

2. 自己評価

(1) 妥当性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。

当館は、多くの文化施設が集結する上野の駅前という好立地に加え、世界遺産に登録された建築家コルビュジェが設計した西洋美術館を正面に、その弟子である建築家・前川國男が設計した当館の建築的な魅力と令和3年度に60周年を迎えた古くからオペラやバレエを本格仕様で上演する舞台機構を持つ施設として数々の著名な欧米の劇場の引越公演が上演され、歴史的にも重要な施設として非常に高い稼働率を誇ってきた。しかしながら新型コロナウイルス感染症というパンデミックの影響で令和2年度の実質的な稼働率は大ホール45.4%、小ホール48.1%と大幅に落ち込むこととなった。令和3年度は大ホール88%、小ホール78%と回復傾向となっている。

パンデミックの渦中ではあるが、東京都の文化ビジョンに記載された都立文化施設の運営方針に則った基本方針に沿って、自主事業を企画・運営しており、その事業企画はPDCAのサイクルを取り入れ、より質の高い事業展開に取り組んでいる。

事業の運営に当たっては、外部の専門家の意見も取り入れるため、定期的に外部評価委員会・運営委員会も実施。予算・決算時に評議員会・理事会を経て、事業が承認される。

今年度も昨年度に引き続き、パンデミックの渦中ではあったが、ミッションに則り、自主財源及び様々な助成金、協賛金、入場料収入等を財源として、育成した新進アーティストやワークショップ・リーダー、ベテランのアーティストやプランナーを投入して、「創造発信」「人材育成」「教育普及」の3本の柱が運動した多様な自主事業を構成し、実施した結果、長期間の緊急事態宣言下において中止や延期、入場人数制限があったにも拘らず前年度比123%が来場した。

このように平成30年度からの4年間を通じて、制作した事業は専門誌等にも数多く取り上げられ、都内外の文化施設や教育機関・福祉機関とのネットワークの拡大に加え、海外の文化施設や団体との連携も実現している。

これらのアウトプットにより、大学との連携や、専門職員、アーティスト等への取組に関する地方からの講義依頼も増加しており、輩出したアーティストやワークショップ・リーダーによる幅広い普及・啓発活動の効果の拡大や、都内のみならず地方都市にも文化芸術を鑑賞する機会の創出へと繋がっている。更に、東京発の舞台芸術を国際的なフェスティバルであるヴェネツィア・ビエンナーレとの国際共同制作により上演する等、国内への成果の還元のみならず日本からの発信力を拡大することが出来た。

上記のような実績の結果として、令和3年度の外部評価委員会及び令和2年度の指定管理者評価(令和3年度は今秋に実施)も平成30年度から連続して高評価を得ることが出来た。

自己評価

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

前述の成果に向けて、「創造発信」「人材育成」「教育普及」の3本の柱が連動した多様な自主事業を展開するにあたっては、「人材育成」を中心に、「教育普及」、「創造発信」の各事業に結びつけることを前提とし、それらが当該地域＝東京のみならず全国に還元することを目指している。

東京音楽コンクールの入賞者を多数起用して4年にわたり事業を展開した結果、令和3年度においては、ピアニスト2名、チェリスト2名が海外のコンクールで入賞、国内コンクールでも2名が優勝。また、チェリスト1名が第20回 齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞する等、我が国の文化芸術の牽引役を担うアーティストとして成長しており、更に、彼ら若手アーティストと経験豊富なアーティストを起用した多様な事業を展開することで、より水準の高い作品を提供することに繋がっている。

国際共同制作となった舞台芸術事業にも若手アーティストを起用し、海外での公演にも出演。今後の海外での活動にも寄与することで、日本人アーティストの実力を国際的に周知する機会となっている。

また、基本となる音楽的スキルの上達、脚本構成力、表現力、手話等の幅広いトレーニングとそれらを活用した実践の機会を提供しながら育成するワークショップ・リーダーを起用した教育普及、社会包摂事業については、コロナ禍においても乳幼児や子供のいるファミリー層やアクティブ・シニア、障害者等の多様な人々が参加する機会を創出。令和3年度においては目標の約2倍の参加者を迎えて様々なワークショップを開催した。

ワークショップ・リーダーを育成し、あらゆる人々に向けた作品を創作して実施する機会を創出する当館の取組は、都内の文化施設のみならず都外からも視察に訪れていただくなど関心の高さがうかがわれている。この4年間においては、近隣の千葉や北海道、四国等でも開催する等の展開を図る一方、ワークショップ・リーダーを起用したオリジナルのワークショップの開催も富山県民小劇場 ORBIS 等で実施された。このように、当館の取組をきっかけとして、ワークショップ・リーダー自らの活動や、他の文化施設等で起用されて行われた各種事業は令和3年度で17件に上るなど、当館を拠点とした拡大が見られる。

文化施設のみならず、福祉関係や教育関係の関心も高く、令和3年度は都内文化施設と連携した教師向けの講座と実践も行った。

令和3年に60周年を迎えた当館は、今後の展開を視野に、ポルトガル、イギリスの文化施設とヨーロッパの団体との連携によりフォーラムを開催。コロナ禍における文化施設の事例紹介やディスカッションを通じて、国内外の情報発信をオンラインで行った際には、多ジャンルによる参加者は400名を超え、関心の高さが伺えた。

あらゆる人が足を運ぶ機会を創出することを目指し、手話付きのワークショップや体感装置を設置したコンサート等を開催してきたが、令和3年度は、手話付きのワークショップに聴覚障害の児童と健聴者が一緒に参加する機会が増加。ろう者の協力を得ながら改善を重ねた結果が実を結びつつある。

更に、あらゆる人を対象としたコンサートでは、それまでの経験を発展させた障害者向けの補聴器システムを開発する企業と連携。聴覚障害者の聴く環境の向上に向けた、システムの改善に寄与する機会となった。

また、開発されていた視覚に訴える楽器「共遊楽器」を活用したワークショップも実施し、「共遊楽器」の使用用途や、聴覚障害者と共に音楽を楽しむ可能性の拡大に寄与した。

このように、「創造発信」「人材育成」「教育普及」の3本の柱が連動した多様な自主事業を、本助成金を活用して展開することで、公益財団法人が運営する公立の文化施設としてあらゆる人々がアクセスしやすい環境を整えることへと繋がり、文化的、社会的、経済的な意義が生まれ、更にその事業を継続的に展開することによって、より有意義な成果をもたらすことは明白である。

(2) 有効性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

自己評価

目標を達成し、アウトカムの発現は可能か。

4か年を通じた事業計画に設定した指標の達成状況は以下のとおり。

指標	H30	H31	R2	R3	R4	計もしくは平均
1. 創造発信事業 (公演事業)						
(1)【国際・国内連携】						
創造した舞台芸術作品を上演する他の文化施設や団体数: (H27-29実績:4 内訳 文化施設3、団体1)	5年間で10	2	3	4	3	12
(2)【コラボレーションと 新クラシックの提案】						
コラボ作品・コンサート実施数: (H27-29平均実績:6)	年間平均7	8	7	6	10	7.75
(3)【若手の活用】						
①創造系事業への東京音楽コンクール入賞者起用: (H27-29実績:4作品)	5年間で8作品	2	2	1	4	9
②東京音楽コンクール入賞者起用者数: (H27-29実績:70.6名)	年間平均85名	88	109	71	86	88.5
(4)【鑑賞機会の創出】						
①児童向けコンサート: (H27-29実績:平均7.6回)	年間平均10回	20	12	21	18	17.8
②コアなファン向けコンサート: (H27-29実績:平均7.6回)	年間平均9回	9	9	7	7	8.0
③広く一般向けコンサート年間: (H27-29実績:平均52.3回)	平均55回	50	54	46	26	44
2. 教育普及事業 (普及啓発事業)						
(1・2)【国際連携】						
施設(団体)との国際的連携数: (H27-29実績:平均1)	年間平均2	2	3	1	4	2.5
(3)【社会的課題への対応】						
①実施する延べワークショップ数: (H27-29実績:平均81.3回)	年間100回	126	136	124	188	-
②開発するワークショップ数: (H27-29実績:平均11件)	年間13件	15	13	15	23	-
(4)【若手の活用】						
東京文化会館ワークショップリーダーの ワークショップ起用数: (H27-29実績:平均延べ190.6人)	年間平均 延べ400人	461	406	387	556	452.5
(5)【文化施設等多様な連携】						
文化施設や実演家団体との連携数: (H27-29実績:平均31)	年間平均35	39	36	25	27	31.8
3. 人材育成事業 (人材養成事業)						
(1)【新進音楽家】						
海外における演奏機会の創出及び 海外招聘アーティストとの共演機会の創出数: (H27-29実績:3年間で1事業)	5年間で6事業	1	2	0	1	4
(2)【舞台芸術を支える人材】						
多様なトレーニング実施数: (H27-29実績:平均3.6種類)	年間平均5種類	6	11	11	16	11.0
(3)【若手の活用】						
各事業への東京音楽コンクール入賞者起用数: (H27-29実績:平均71人)	年間平均80人	121	121	100	136	119.5

「創造発信事業」の目標の達成状況

国内の舞台芸術の創造発信拠点として、既成の舞台芸術の枠に捉われず、新たな舞台空間の創造の可能性を探求した作品を国内外の一流の演出家・出演者等と創り上げるなど、人々に音楽舞台芸術作品の魅力を幅広く発信し、鑑賞者の裾野拡大を図ることを目標とし、各指標を設定した。

(1) 国際・国内連携については、芸術性は高いが民間では実現し得ない、海外で注目を集める日本人アーティストの作品や日本の文豪による作品を題材としたオペラ、斬新な演出作品の紹介等を国内外の劇場等と連携して企

画・制作することを目標に立てた指標において4年間でそれを上回り達成している。

令和3年度は「能」を題材とした現代音楽作曲家のカイヤ・サーリアホのオペラ作品「Only the sound remains」を世界的なフェスティバル「ヴェネツィア・ビエンナーレ」と国際共同制作が実現。その他、バルセロナのカタルーニャ音楽堂も共同制作に参加し、フィンランドのタンペレホール、フランスのストラスブール音楽フェスティバルでも令和4年度に上演が予定されるなど、国際的に大きくアピールすることが出来た。

また、(2) コラボ作品・コンサートの実施回数、(3) 若手の活用も4年間で指標を達成。

(4) 鑑賞機会の創出については、コロナ禍の影響を大きく受けて、入国制限による開催中止、感染拡大抑止による連携文化施設等の判断による中止等により指標を達成していないが、コロナ禍であっても児童向けのコンサートへのニーズは高く令和2年度、3年度も影響を受けずに実施することが出来た。

「創造発信事業」では海外とのネットワークも拡大して、今後の連携も企画されており、日本の芸術文化の海外への発信に寄与するとともに、幅広い層に鑑賞機会を提供することに繋げている。

「教育普及事業」の達成状況

あらゆる人々が音楽を媒体として体験・参加することで舞台芸術の喜びを享受し、豊かな感性やコミュニケーション能力を育む機会を創出することで、生きがいを持った豊かな生活を実現するとともに、芸術文化の次世代への継承・発展に寄与することを目標とし、各指標を設定した。

(1・2) 国際連携数については、コロナ禍によりオンラインを活用した連携を推進。指標を上回って達成した。

(3) 社会的課題への対応、(4) 若手の活用に係る指標も大きく上回って達成。コロナ禍2年目の令和3年度は、感染症の特徴への対応も踏まえた乳幼児・児童を対象とした作品のニーズが増加し、次世代の芸術文化への参加機会を創出している。

(5) 文化施設等多様な連携については、連携先文化施設のコロナ対応により中止せざるを得ない状況となったため、指標を達成できていないが、令和4年度に向けては回復傾向が見られている。

「人材育成事業」の達成状況

「東京音楽コンクール」の国際化を推進し、才能溢れる新人音楽家を幅広く発掘し、舞台芸術の次代を担うアートマネジメント、ワークショップ・リーダー、舞台技術者等の専門人材を育成する。これらの若手人材が将来の文化創造の推進力となるよう様々な研鑽の機会を提供し、日本の芸術文化の振興に寄与することを目標に、各指標を設定した。

(1) 新進音楽家の海外の演奏機会の創出については、コロナ禍の連携先となる海外事業の中止に伴い、令和2年度、3年度と連続して実現しなかった事業の影響により指標が達成できない可能性が高い。

(2) 舞台芸術を支える人材に対する多様なトレーニングは年々多角的に実施しており、指標を大きく上回って達成している。

(3) 若手の活用として東京音楽コンクール入賞者の起用数は指標を大きく上回って達成。

コンクール入賞後の活動機会を幅広く提供することで、芸術性の高いコンサートや舞台芸術作品における演奏はもとより、教育普及や社会包摂に係る事業へも積極的に参加するなど。多角的な視野を持つ音楽家に成長した様子が見られる。

また、これらの事業を実施するにあたっては、アートマネジメント人材やワークショップ・リーダー、舞台技術者等の若手が積極的に関与し推進している。

上述のように、目標の達成に向けた指標はコロナ禍の影響を受けながらも概ね達成することが出来た。

全ての事業は以下のような活動の上で実現し、今後も継続して実施していくことで長期的な影響が担保される。

インプット 投入	アクション 活動	アウトプット 産出	アウトカム 成果	インパクト 影響
【財源】自主財源、入場料・参加料収入・協賛金・本助成金及び各種助成金 【人材】「人材育成事業」により輩出された若手アーティストやワークショップ・リーダー、制作の担い手、各種専門人材	・「創造発信事業」「教育普及事業」「人材育成事業」の連動した各事業の企画・構成・準備・運営 ・ネットワークの活用 ・専門人材の育成	・事業の実現 ↓ ・多様な人々の入場・参加増 ・若手アーティスト等の活躍 ・社会的課題の改善 ・国内各地での芸術文化に触れる機会の増加 ・ネットワーク強化 ・国際的な発信力強化	・あらゆる人々への芸術文化への参加機会の創出 ・拠点地域の活性化 ・国内各地の文化芸術への参加機会の増加による幸福度の向上 ・海外における日本澁芸術文化の認知度向上	・高い芸術性の担保された作品の継続した提供 ・社会的課題の解決 あらゆる人々の豊かな人生への貢献 ・人材の循環

目標の達成に向けては、令和3年度においても、令和2年度に続く新型コロナウイルス感染症により緊急事態宣言が長期的に発令され困難を極める中、自主財源、様々な助成金、協賛金、入場料収入等を財源として、育成した新進アーティストやワークショップ・リーダー、ベテランのアーティストやプランナーに加えて専門人員を揃えた体制強化によるオリジナル性・新規性の高い事業を実現したこと、又、作品毎に、短期・中期で広報・販売計画を立てる等、各担当セクションが連動して運営したことにより、全体ではアウトカムの発現は可能であった。

平成30年度からの4年間においては、後半の緊急事態宣言下に、限られた財源と人材を有効活用しながら目標の達成に向けて冷静に判断し運営してきた結果、アウトカムは発現しており、今後も継続しながら更なる展開を続けることで長期的なインパクトは更に大きくなると考える。

(3) 効率性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

令和3年度に展開した事業は、財団の方針により令和2年度前半に予算を組み立てている。さらにその前年度にはアーティストの選定や創造発信事業の概要、人材育成事業のスケジュール等については決定しており、実施会場は規定に準じて6か月前、15か月前、18か月前に手配すること、また、教育機関との連携に係る事業については、該当年度内に期間を設定し、その期間内で事業を展開している。

新型コロナウイルス感染症拡大防止による緊急事態宣言下においては休館期間、入国制限の影響を受けながらも、事業全体の中止は22事業中1事業に留まった。21事業においては一部の公演で中止・延期を余儀なくされたが、幸いにも最小限の影響に留まり、短期・中期で展開する事業を適切な準備期間を経て実施することが出来た。

目標入場者数については、コロナ禍の中止や延期、入場人数制限や不特定多数に向けた事業展開が出来ないことにより定められた目標ではあったが、その94%を達成し、令和2年度の64%に比較して回復傾向が見られている。

平成30年度からの4年間においては、令和2年度の新型コロナウイルス感染症の初期段階における大きな影響を受けたものの、全般的には上述のとおり計画的に事業は企画・制作され、運営することができた。

自己評価

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

令和3年度の事業費全体においては、令和2年度の入場制限や外出制限、3密回避の影響により、入場者・参加者数の見込みを立てた結果、目標にわずかに届かず94%、入場料・参加料収入は約86%となった。また、協賛金等については、他の助成金を獲得したことから約168%となった。

経費においては、海外からの招聘事業をオンラインに切り替える、入国制限による事業の中止や代替出演者の起用、他の助成金充当による経費減、広告宣伝の実施が困難な状況を踏まえて展開する等、対象経費を約82%の支出に抑えて運営し、最終的に効率的な事業運営を実現した。

徹底した執行管理により、入場料収入状況や経費削減状況を把握し、教育普及事業のオンラインプログラムやオンライントレーニングの実施、配信用映像の制作等、コロナ禍における事業の拡充に充当することで、より質の高い事業展開を実現させることが出来た。

自主事業を執行していく上では、全体の収入や支出のバランスを見ながら必要に応じて事業間の予算の移動を行いながら効率的な運営を目指している。

個別事業については、要望時に想定した助成金額と内定額に乖離がある上、上述の理由により乖離が見られる場合であっても、より効果的な助成金の活用を実現したと考える。

コロナ禍2年目においては、出演予定の実演家団体の感染症対策や開催会場の自治体の方針により事業実施の可否が決定される他、入国制限や入場制限等により、先々の見通しが立たないことも多く、自らの努力では解決できない事情により直前までイレギュラーな対応が必要であったが、延期やプログラム内容を変更する等により事業期間内に中止せざるを得なかった一部公演と1事業除く21事業を実施することができた。

平成30年度からの4年間を通じて上述の内容と同様に運営し、より効果的な助成金の活用を実現した。

(4) 創造性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている(と認められる)か。

最も特徴的であるのは「人材育成事業」が基盤となり、様々な「創造発信事業」「教育普及事業」と有機的に連動して事業全体を構築している点であるが、その「人材育成事業」では、小林研一郎音楽監督が令和2年度末まで総合審査員長を務めた東京音楽コンクールの国際化や、様々な事業に新進音楽家を起用した企画・運営を実施し、更に都内外の文化施設での公演に起用する等、監督自らが入賞者の活躍の機会の創出を推進し、事業展開の活性化を図っている。又、小林音楽監督の後任として令和3年9月に着任した野平一郎音楽監督も着任以前よりピアノ部門の部門審査員長を務めていた経緯もあり、若手の起用や育成に繋がる企画を引き続き牽引している。

オペラ制作を専門とする事業企画課長や創造事業、教育普及、社会包摂を専門とする担当係長、照明プランナーでもある舞台管理担当係長の継続した配置等により、それぞれの専門性を活かした事業内容の拡充や、各事業の企画・制作に携わる職員のスキルアップを図りながらミッションに呼応する独創的な事業を展開し、広報面でも担当係長を配置することでその成果を効果的に発信している。

館内に拠点を持つ東京都交響楽団とは定期的に協働事業を展開しており、身近な実演家団体との連携が作品のクオリティの高さに一役買っている。

また、日本でも数少ない本格的なオペラ公演の開催が可能な大ホールのみならず、「奇跡の音響」と称される小ホールでは、本来の使用目的であるリサイタルや室内楽に加え、その空間を活かした舞台芸術作品を企画・制作することで、より身近に多様な公演を観客に提供し、館の魅力を幅広く発信している。

「創造発信事業」では、令和3年度に60周年を迎えた当館の新たな挑戦として、世界的現代音楽作曲家のカイヤ・サーリアホが能を原作として作曲したオペラ「Only the Sound Remains」を、弦楽アンサンブルに東京音楽コンクール入賞者を起用して上演。イタリアの著名な国際フェスティバルであるヴェネツィア・ビエンナーレ、スペインのバルセロナにあるカタルーニャ音楽堂との国際共同制作作品として取組み、令和3年度に当館及びイタリアでの上演が実現した。会場には多数の音響システムを配置し、今までに体感したことのない音空間を実現。入場者数の達成率は入場制限期間であったことから66%と目標を下回ったがコロナ禍の状況においては予想以上となった。来場者の満足度も88%と高く、出演者やスタッフ等の関係者も満足できた公演となった。令和4年度はバルセロナに加え、フィンランドのタンペレホール、フランスのストラスブール音楽フェスティバルでの上演も決定しており当館発の作品が国際的にも認められる良い機会となった。

令和3年度の海外公演では、入国制限により全てのコンクール入賞者が参加することは叶わなかったが、海外を拠点にする1名が参加。令和4年度もその1名が所属するフランスを拠点に活動する若手アンサンブルが出演することとなり、今後の連携や更なる活動に繋げることができた。

更に、当公演に出演したチェリストが第20回 齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞する等、我が国の文化芸術の牽引役を担うアーティストとしての成長に寄与している。

また、令和3年度のオペラBOXでは、60周年の機会に過去の作品の名場面をピックアップして2日間にわたり6作品を上演。コロナ禍において実施するオペラの現場では稽古段階の感染予防策に十分配慮していたが、稽古期間中の感染者の発生等により上演が危ぶまれたものの代役を起用して実現。入場人数制限期間に開催したことから入場者数は当初目標の80%に留まった。初来館者は目標の10%に対し7%ではあるが、前年度の4%から約2倍に増加。知名度の高い作品のダイジェスト版が新たな観客の創出に繋がったと推察される。

令和3年度に立ち上げた「シアター・デビュー・プログラム」では小学生、中高生をそれぞれ対象にして大人も楽しめるオリジナル作品を企画・制作。10歳、15歳を対象に無料招待枠の設定や、事前の小学校・中学校・高校へのアウトリーチの実施等、来場機会の創出の契機となる工夫も取り入れた。

中学生、高校生を対象とした作品には既にシリーズとなっている人形劇俳優であり演出家でもある平常とチェリストの宮田大によるコラボレーション作品「ハムレット」を取り上げた。両日とも完売となり、宇都宮市文化会館への巡回公演も実現した。中学校、高校へのアウトリーチには2人のアーティストが出向き、体験談や演奏、実演等を交えて青少年の関心を高めた結果、入場者全体の11.3%は10代であった。

小学生も楽しめる作品として平安時代に書かれた『堤中納言物語』より日本発祥のダンス「舞踏」とクラシック音楽のコラボレーション企画として制作。アウトリーチでは舞踏を体験する等関心を高める機会を創出。

学校でも学ぶ機会のある馴染深いクラシックの名曲を散りばめた作品と舞踏とのコラボレーションは高い評価を得た。

本事業の満足度は92%と非常に高く、また初来館者も目標とした10%を大幅に上回る20%となるなど、開催の主旨がニーズに合致した取組となった。

「シャイニング・シリーズ」では東京音楽コンクール入賞者を中心とした「東京文化会館チェンバーオーケストラ」によるコンサートを実施。27名の編成によるコンサートは、芸術的にも技術的にも非常に高いクオリティで、評論家の評価も高く、定期的な開催を求める声もあった。ヴァイオリンソロのコンサートも人気で、本シリーズの入場者数は128%となった。チェンバーオーケストラは白河文化交流館コミネスでも巡回公演を実施している。4年間を通じて延べ3か所の文化施設との連携を果たした。

また、「プラチナ・シリーズ」では入国制限により令和3年度は2公演が中止となったが、4年間を通じて計3箇所の文化施設との連携を実現した。

人材育成や教育普及では、予定していた海外からの講師の招聘は令和2年度に引き続き入国制限により実現できなかったが、オンラインを活用して育成した人材向けのトレーニングや対面による「音楽家のためのプロフェッショナル・トレーニング 対話型音楽鑑賞—参加者の“聴く”を深めるための対話術」、若手音楽家活動支援セミナー「アーティストのお仕事って…演奏するだけではない？」講座をアートマネジメントの専門家を講師に招いて開催する等、多角的に実践し、若手音楽家が技術や芸術性の向上に向けた学び以外にも必要なノウハウを学ぶ機会とした。

東京文化会館ミュージック・ワークショップは音楽をツールとした自己表現力やコミュニケーション力を養い豊かな心を育てることを目的とした取組であるが、コロナ禍においては他人との距離を保つことが重要であるため、大きく手法を転換しながら、参加者が家族単位で楽しみ、あるいは個々人の自己表現の機会として、初対面の参加者同士が距離を保ちながらもその趣旨を機能させている。

東京文化会館ワークショップ・リーダーのより豊かな表現力に向けたトレーニングを国内の講師を起用して行いながら、手話や英語を使ったワークショップも新規に開発して実施。手話付きワークショップの開発や改善にろう者の協力を得る、開催時には受付に手話通訳を配置する等、バリアフリー化を推進した結果、令和3年度には聴覚障害者と健聴者との共同参加が定着に向かっている。

新たなワークショップ実施にあたっては、舞台技術の専門職員を起用した照明、音響効果を導入し、より効果的な作品創りを行った。

劇場に足を運び難い障害者や発達障害の児童でも楽しめる「リラックスパフォーマンス」第2弾をワークショ

ップ・リーダー、東京音楽コンクール入賞者のアンサンブルにより開催。ボディソニックや手話通訳の会場内配置、多動や発声に配慮した余裕のある配席等により満足度は 95%と高かった。また、あらゆる人々を迎え入れるためユニバーサルガイドや点字プログラムも作成して対応している。

当日は、文化施設の制作者等 15 名が機材を体験し、終演後にノウハウを伝える説明会の実施や、11 人の聴覚障害者にも協力を得て補聴器システムを開発する企業と連携して聴覚障害者の聴く環境の向上に向けたシステム改善の機会も創出した。

これらをはじめとする当館の事業は、平成 30 年度からの 4 年間、それ以前より継続しながら拡大している当館ならではの東京音楽コンクールに入賞した若手アーティストや育成したワークショップ・リーダーを起用した事業を核に、トップレベルのアーティストも起用して、世界初演作品をプログラミングする等、独創性、新規性に富んだ自らの企画・制作によるものであり、他の文化施設と構築したネットワークを活用して国内全域に対して、そして海外でも展開を図る点で先導性が認められる。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

当館では、一定の年齢層の観客を対象に毎年開催する事業や、毎回新たに制作するが冠を定めてシリーズとして上演していく事業など、形を変えながらも数多くの事業を継続して展開してきた。このため広報・宣伝のノウハウも蓄積することとなり、これに伴い、回を重ねて定着させることが評価の向上につながり、又、質の高い内容の新制作公演を継続的に発表することで、国内外にその評価が伝わるケースが見られた。

例えば「東京音楽コンクール」は、令和3年度に372名の参加者を迎え第19回を開催。2次審査、本選における3部門の入場者は112%の入場率となった。コロナ禍以前は海外からの応募者が増加傾向にあり、中でも韓国などアジアからの応募者は多く、入賞者も輩出した。平成30年度に開催した第16回ではカザフスタンからの応募者が優勝し、その様子を大使館が発信するなど、国際的にも取り上げられるコンクールとなっている。国内でも、東京音楽大学の生徒募集パンフレットにコンクール名が掲載されるなど、日本を代表する音楽コンクールの一つとして、その地位を築いていることが伺える。観客からも「来年も楽しみ」「毎年来ていますが、若い人達が育っていくのを見るのは頼もしく楽しい」等の声が上がっており（アンケートより）、コンクールを題材にした小説のヒットとあいまって、コロナ禍となる前までは観客も増加の一途を辿った。

▼在日カザフスタン大使館 facebook より

Embassy of Kazakhstan in Japan 在日カザフスタン大使館
2018年8月28日

2018年東京音楽コンクールの声楽部門本選にて優勝を果たし、聴衆賞を獲得したカザフスタンのザリナ・アルティエンバエヴァオペラ歌手、おめでとうございます。

Вокал бойынша 2018 жылғы Токиодағы музыкалық байқауда бірінші орынды және көрермендердің көзайымы сыйлығын алғаны үшін қазақстандық опералық әнші Зарина Алтынбаеваны құттықтаймыз

Congratulations to the opera singer of Kazakhstan Zarina Altynbaeva on the First prize and the Audience award in the Tokyo Music Competition 2018, Vocal Section

Поздравляем казахстанскую оперную певицу Зарину Алтынбаеву с первым местом и призом зрительских симпатий в Токийском музыкальном конкурсе 2018 по вокалу

▼東京音楽大学 パンフレット

東京音楽大学は
チャレンジの精神を
大切にします。

本学の学生はコンクールに意欲的にチャレンジし、毎年の入賞、入賞者は100名を超えます。

音楽家の意欲ともいわれる国内外のコンクールで優秀な成績を収め、現在第一線で活躍している卒業生が数多くいます。

第16回 タイヨコボン国際コンクール 第2位

経緯と一貫した歴史を辿ると、このコンクールは音楽教育に熱心な学生から始まったこと。それがのちに発展し、現在は日本を代表する音楽コンクールとして知られるようになった。その歴史は、音楽教育の発展と、学生たちの成長を促すことに貢献してきた。毎年、多くの学生が参加し、優秀な成績を収めている。このコンクールは、音楽教育の発展と、学生たちの成長を促すことに貢献してきた。毎年、多くの学生が参加し、優秀な成績を収めている。

第88回 日本音楽コンクール フルーツ部門 第1位
第17回 東京音楽コンクール 水管部門 第1位
第24回 びわ湖国際フルートコンクール 一般部門 第1位

部門別の学生は、毎年コンクールにチャレンジして、多くの学生が活躍の場を掴み取る。このコンクールは、音楽教育の発展と、学生たちの成長を促すことに貢献してきた。毎年、多くの学生が参加し、優秀な成績を収めている。

第36回 日本管打楽器コンクール チューバ部門 第1位

このコンクールは、音楽教育の発展と、学生たちの成長を促すことに貢献してきた。毎年、多くの学生が参加し、優秀な成績を収めている。

「東京文化会館オペラ BOX」は、東京音楽コンクール入賞者を起用して、初めて観る方にも楽しめるオペラを届けるシリーズ。上野中央通り商店会と共同で主催しており、地域の活性化に寄与している。

毎回本格的なオペラを低価格で提供しており、平成31年に開催されたオペラ『泣いた赤おに』は照明の専門誌にも取り上げられた。

「舞台芸術創造事業」では、令和3年度に開催されたオペラ『Only the Sound Remains ー余韻ー』が国際共同制作先のヴェネツィア・ビエンナーレ(イタリア)でも開催され、イタリアの雑誌・新聞に広く取り上げられた。

作曲を手掛けたカイヤ・サーリアホが、ヴェネツィア・ビエンナーレにて金獅子賞を受賞したことも注目を集めるきっかけとなった。出演者の受賞による事業の評価という点では、令和2年度に開催された歌劇『ヴォルフイタリヤ歌曲集』で振付を手掛け自身もダンサーとして出演した山本裕が、「週刊オンステージ新聞」の「2020年舞踊ベスト5」選評において評価され、〈振付家〉部門で入賞を果たした。

「舞台芸術創造事業」は国際共同制作などで国外に当館事業を知らしめる契機となっているが、国内への巡回も行われている。平成31年度に開催された歌劇『400歳のカストラート』は宮崎県立芸術劇場でも上演され、地方紙にも取り上げられた。創造事業が国内の他の劇場でも上演されることで、当館が全国の公立文化施設を牽引する役割を果たす一助となっている。

令和3年度のシアター・デビュー・プログラム「虫めづる姫君」では、終演直後からSNSに様々な投稿が寄せられ、評論家や一般観客からの良好な評価反応を知ることができた。

その他、国内外での評価の向上につながっていると認められる専門誌や新聞における公演レポートや批評等によりに伺える。

教育普及事業はコロナ禍においても開催を希望される特別支援学校は毎年増加傾向にあり、オンラインを活用したライブによるワークショップの要望にも対応している。

「ONTOMO (Web)」ではポルトガル現地レポートと題し、連携するカーザ・ダ・ムジカの取組と共に当館の音楽ワークショップや育成事業が紹介された。

また、当館が加盟するヨーロッパを拠点とする教育普及のネットワーク「RESE0」においては、当館の多様な取組を写真付きで加盟欧米文化施設に紹介。国際的な存在感をアピールした。そのネットワークを通じて令和3年度には「香港芸術祭」のオンラインシンポジウムにも参加し、社会包摂にかかる取組等の事業紹介をする機会を得る等、海外への発信機会が増加している。

社会包摂にかかる事業については、積極的に大学等との連携による調査研究を行っている。調査研究の成果は当館HPで公開し、広く発信している。

https://www.t-bunka.jp/about/on_stage.html

令和3年度には、九州大学が文化庁と共同制作したハンドブックにも当館の事例が紹介されている。

<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/research/information/artdesign/design/design38>

多様な対象に向けたワークショップやトレーニングには、他の文化施設や教育機関、福祉機関からの視察希望も多く、継続して受入れている。ワークショップは都内各地の文化施設等からの新たな開催要望も寄せられ、より幅広い世代に向けた取組として認知されていることが分かる。次年度以降も様々な文化施設との連携を予定している。

年度末には公演写真を多用した視覚的な訴求効果のあるアニュアルレポートを作成し配布する他、HPにおいても閲覧可能とすることで広く発信している。

このように当館の特徴的な取組は、各種メディアや専門家等を通じて国内外に幅広く発信されており、その独創的で新たな提案は当館に対する評価を大いに高めている。

(5) 持続性（平成30年～令和3年度 4か年分）

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

平成30年からの4か年を通して、館全体の運営については外部評価委員会及び運営委員会を設置し、目標に沿った事業計画の策定と運営、課題の洗い出しと解決を継続して実施している。自らの事業運営を外部からの視点を通して継続して改善することで、事業のレベル向上と全体の機能強化に繋げている。

継続した運営を担保する人材の確保を視野に、若手制作者育成のためインターンを受け入れ、企画段階から運営まで、職場の一員として現場体験を実施しており、終了後には当館の臨時職員や常勤職員として、あるいは、新国立劇場を始めとした文化施設やマネジメント会社、実演家団体において活躍している。

令和3年度には雇用転換制度の活用により1名の正規職員雇用転換が決定した。専門人材の正規職員は年々増加している。

劇場の運営には専門人材の確保は必須である。正規職員の増員により、継続的に専門家を担保し、長期的ビジョンの下運営する体制を整えることが可能となるため、財団の方針に則り正規職員の増員を毎年図っている。

職員は財団による計画的な研修への参加、例えば、制作や舞台音響の専門家を海外の劇場等に派遣研修に参加させる等、専門分野に特化した研修に参加してノウハウを吸収すると共に、財団の語学の習得補助の仕組みの活用や、財団内の他の文化施設との協働、平成30年10月3日に締結した新国立劇場との連携・協力協定を活用した共同制作の実施や双方の職員の交流によって多方面で継続的にスキルアップを図っている。更に、多摩地区や地方の劇場との連携も年々深化しており、職員のノウハウの共有やスキルアップが期待されている。特にコロナ禍における令和2年度、3年度においては、培ったネットワークを活用した文化施設間の連携事業の展開に繋げている。

また、全ての職員が年度開始時に目標を掲げて業務に携わり、自己評価と業績評価によって研鑽する制度を継続して導入している。

財政面においては、都立文化施設の指定管理者として、館運営の基盤については安定した財源が確保されており、コロナ禍においても都との協議により指定管理料を増額する措置が取られている。

事業を継続し、運営していくために必要な資金を調達するため、令和2年度に新たな協賛金制度を立ち上げた。コロナ禍で経済的な打撃が大きい年度の開始となったため新規開拓は困難を極めたが令和3年度には令和4年度に向けた協賛金の獲得も始まった。また、稼働率が高いため対応できるケースは少ないがロケーションBOX制度の活用も行っている。

友の会制度は、メルマガ会員や令和3年度から開始した個人協賛制度へと令和3年度末をもって移行を図り、更なるサービス向上を目指すと共に、支援者の拡大も図っている。このような制度を活用し、今まで構築した協賛企業や支援者等との関係を更に深め、安定した運営を目指すと共に、歴史ある当館のファン層を更に拡大している。

各事業において、都内外の文化施設や教育機関、福祉機関等と構築したネットワークの活用がコロナ禍での多様な事業展開に繋がっている。加えて、民間や大学との連携によるアクティブ・シニア向けの音楽ワークショップの効果検証の結果に基づくブラッシュアップにより満足度の高い事業を展開。大学との連携により平成31年度に刊行した「社会包摂につながるアート活動のためのガイドブック」の英語翻訳、毎年、国内外のシンポジウ

ムに登壇する機会を得るなど、事業の発展が認められている。今後も大学との連携を通じた検証を進めると共に、多ジャンルとのネットワークを構築することでイノベーションのきっかけとしていく。

各事業においては、

【Plan】

設置自治体のビジョンに沿ったミッションに則った事業計画を「創造発信事業」、「人材育成事業」、「教育普及事業」の3本の柱を連関させて企画・制作し、

【Do】

各事業を財政面・スケジュール面で管理しながら着実に運営する。

【Check】

事業終了後は顧客アンケートの集計や意見を参考とし、自己評価や外部評価委員による事後評価や、監査機関による財政面での執行管理の評価を受け、

【Action】

評価により改善が必要な点は積極的に改善し、マンネリ化も防ぎながら新たな企画に繋げるという、PDCAサイクルを用いて運営しており、これらの事業展開を行った成果として、平成30年度に比較して、創造発信、人材育成、そして教育普及の各事業が発展している。

令和4年度以降は、野平一郎音楽監督の下、その専門である作曲領域や、国内外とのネットワークを活用して、新たな作品の創出等、これまで以上に持続的な発展を遂げることは明白であり、そのためには本助成金を交付していただくことが不可欠である。

自己評価

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

4か年を通じた事業計画に設定した指標の達成状況は前述の通り、コロナ禍の影響を踏まえても十二分に達成しており、事業は拡大傾向にあると考える。

人材育成が教育普及、創造発信に深く関与し、有機的に連動させて事業を展開する施設として機能しており、その事業展開の手法は独創性の高い新規性のある先駆的なものであり、組織全体でその運営をバックアップしていく仕組みが構築されている。

安定して運営する上で必要なPDCAサイクルを活用した改善を図りながら事業を運営し、創造した舞台芸術作品のクオリティ、発掘・育成支援した人材の著しい成長、教育普及事業の都内外における展開のそれぞれについて、国際的に通用する事業展開が実現できていると考える。

これらの事業を安全に運営するために、舞台担当職員は定期的に舞台技術者研修に参加している。また、来館者の安全確保のため、危機管理マニュアルを作成し、日頃から対策を進めるとともに、非常時の連絡体制を明確にして万全の対応を取っており、安心安全な事業展開を担保している。

公益財団法人として、収支相償の観点から自らの資金調達は大きく増加させることは困難ではあるものの、協賛金制度も運用が始まり、今後も館の魅力を丁寧に伝えながら参加企業を募ること、更に本助成金を継続して交付いただけることで事業を更に発展し、持続的なアウトカムの発現につながり、それを定着させていく。今後も幅広い対象に向け、質の高い事業を展開していくことで、社会に貢献し、他の文化施設を牽引することのできる施設の1つであると考えます。